

小學修身鑑補 卷十三

館籍書會育教本日大		
室 六 第		
六	五	三
冊	號	架

7 131
388

不認定等
K120.1
1
13

K120.1

1

13

露光量調整、重複撮影

吉田利行編輯

版權所有

小學修身鑑補

魁玉堂藏版

小學修身鑑補卷十三

吉田利行編

第一孝行

① 其レ人ノ行ノ善不善ヲ觀
 ント欲スルニハ必先ツ其人
 ノ孝不孝ヲ觀ル慎マザルニ
 ケレバ懼レザルベケンヤ

童蒙訓

② 孩提ノ童モ其親ヲ愛スル

① 天地神祇ヲ祈リ
 求メンヨリハ父母
 ニ孝ヲ盡スニ若カ

小學修身鑑補 卷之十三 程政編

小學修身鑑補卷十三

吉田利行編

第一孝行

○其心

ノ行ノ善不善ヲ觀

ント欲スルニハ必先ヅ其人

ノ孝不孝ヲ觀ル慎マザルベ

ケンヤ懼レザルベケンヤ

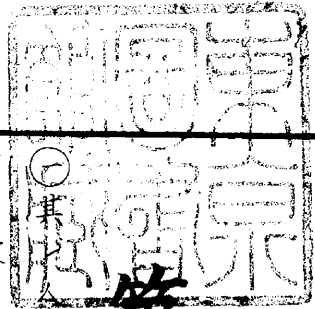
童蒙訓

○孩提ノ童モ其親ヲ愛スル

○天地神祇ヲ祈リ

求メンヨリハ父母

ニ孝ヲ盡スニ若カ



小學修身鑑補

卷之十三

吉田利行

一ヲ知ラザルナシ是ヲ良知ト謂フ惟人此孝アルノミニ非ズ禽獸ト雖モ亦之アリ慈鳥ノ哺ヲ反シ豺獾ノ本ニ報

ジ則二親ハ天地ノ神ナリ

倭論語

マル豈天性ノ自然ナル者ニ非ズヤ人ニシテ不孝ナルハ皆テ禽獸ニモ加カザルナリ 初學知要

沈氏孝驚塚ヲ建ル

一唐ノ天寶ノ末年沈氏ニ一母驚ヲ蓄フ將サニ死セントス其雛悲鳴シテ食セズ啄ヲ以テ薦ヲ取り之ヲ覆フ又芻草ヲ銜ミ前ニ列子祭ル狀ノ如シ天ニ向ヒ長號シテ死ス沈氏之ヲ義トシ孝驚塚ヲ建テタリ

二子ノ孝行ト云フハ人間百行ノ源人倫第一ノ急務ナル故ニ聖人ノ五教ニ父子親アリト第一ニ説キ給ヘリ孝徳

正助父ヲ員ヲテ體テ輕キヲ敬クテ話

ヲ明ニセント思フニハ先ヅ父母ノ恩徳ヲ觀念スベシ 翁問答

二筑前國宗像郡武丸村ノ正助ハ家世々農夫ナリ父正三郎極貧ニシテ田宅ヲモ有セズ僅カノ商賣ヲナシテ世ヲ渡レリ子二人アリ兄ハ節ヲ正助ナリ妹ハ同村某ニ嫁セリ正助ハ母ト共ニ人ノ奴婢トナリ其給米ヲ積ミ貯ヘ遂ニ家宅ヲ買ヒテ父ヲ住セケリ正助能ク備主ニ事ヘ其暇ニハ山林ノ棄地ヲ闢キ後日親ヲ養フノ便トス二十餘歳ノ頃母子共ニ傭役ヲ止メテ家ニ歸リ傭給ノ儲蓄ヲ以テ田貳畝許ヲ買ヒ兩親ヲ養ヘリ父平生酒ヲ好ミシ故正助

二父母我ヲ憐ミ育テ給フノミナラズ

種々辛苦シテ日々少許ヲ購
 求シ之ヲ薦ム酒家感ジテ其
 價ヲ取ラザルニ至レリ正助
 宅中ニ井ナシ毎朝二町餘隔
 ル川水ヲ汲テ歸リ湯ニ湧カ
 シ父母ニ手水ヲ進ム正三郎
 六十歳風症ニ罹リ咫尺モ歩
 行スル能ハズ然レモ妹ノ家
 ニ往カント欲スレバ正助常
 ニ五六町ノ路ヲ背負ヒ其家
 ニ送迎ス正助一日妹ノ家ニテ涙數行ヲ流ス妹怪ミ其故
 ヲ問フ正助曰ク今日父ヲ負ヒシニ他日ヨリ其體輕シ父

善キ上ニモ善カレ
 カシト朝夕教へ導
 キ給へば厚キ恵ミ
 コレヨリ重キハ莫
 シ倭小學

ノ漸々老衰シ給フヲ思ヒ覺エ不涙ヲ落セシト
 享保中西國大ニ蝗災アリ筑前モ亦頗ル害ヲ被リシニ獨
 リ正助が田ノミ少コシモ災ナク秋實常ニ異ナラズ人皆
 天道善ニ福スルノ必トスベキヲ驚歎セリ其大孝此ノ如
 クナレバ名聲郡村ニ溢レ藩廳ニ達シ田地及ビ米錢等ヲ
 賞與セラレシト凡ソ幾回ナルヲ知ラズ正助が死後ニ至
 ルマテ藩主黒田氏其生前ノ孝徳ヲ感セラレ正助及ヒ兩
 親ノ墓ヲ修理セシメ遂ニ自ラ武丸村ニ至テ香火ヲ供シ
 正助が曾孫源助ヲ召シ三段
 ハ畝ノ田地ヲ賜ヒ世々稅役
 ヲ除カレケリ
 三 凡家ノ主ハ其身ヲ修メテ
 三 天ノ生ズル所地
 ノ養フ所惟人ヲ大

時頼ノ家臣母ヲ慕行ヲ包ム

修マレハ孝子命ニ從ハズ乃敬ナリ 荀子

四北條時頼ノ家臣某人トナリ睨レテ孝行ナリ其母頑ニシテ性質至リテ諫急ナリシガ或日少シノ怒リニ乘ジテ我子ヲ打ントシテ誤テ自ラ頼シテ傷キ愈々怒リニ堪ヘズ時頼ニ訴ヘテ曰ク妾が子不孝ニシテ妾ヲ歐キ地ニ倒シ傷ヲ蒙ラシメタリ疾ク糺問ンテ罪ヲ識センヲト時頼之ヲ糺問スルニ某驚キ誰カコノ訴ヘヲ起セシヤト問フ時頼曰ク訴入ハ汝が母ナリ辭アラバ辨ゼヨト某曰クコレ我過ナリト更ニ他ノ辨シ時頼思ヘラク甚シキ不

四子能ク其父ヲ尊

崇シ且其命令ニ就

從スル片ハ父モ亦

孝ナリ罪免ス可カラズト流刑ニ處スベキニ定マレリ其母是ヲ聞テ又大ニ憂懼シ往テ時頼ニ告ゲテ曰ク妾先キ

其子ヲ尊敬セザル

ベカラズ ロツク

ニ一時ノ怒リニ乘ジ無ヲ以テ有トナシテ訴ヘタレモ實ハ妾彼ヲ打ントシテ誤リテ頼シタルニテ妾が子妾ヲ歐ントシタルニ非ザルナリ彼更ニ罪ナシ願ハクハ免サレントト涙ヲ流シテ懇願セリ時頼又某ヲ召シテ曰ク汝始ヨリ母ヲ打タザルニ何為レヨ自ラ誣ヒテ歐キタリト云ヘルヤト某曰ク之ヲ争フ片ハ恐クハ偽罔ノ罪ヲ母ニ負ハシメン故ニ我其罪ニアラザルニ罪ヲ受ケタリト時頼之ヲ聞キテ其孝心ヲ賞歎シ厚ク寵遇アリシト云フ

⑤ 親ニ事フル大節目ハ是體ヲ養ヒ志ヲ養ヒ愛ヲ致シ敬ヲ致スノ四事ナリ其中愛敬ヲ致スヲ尤急ナリトス 許魯齋心法

⑤ 父母ノ命ズル所行フ可ラザル者アラバ則色ヲ和ラゲ聲ヲ柔カニシ是非利害ヲ具サニシテ之ヲ白ウシ父母ノ許シヲ待テ然シテ後之ヲ改メヨ若シ許サレズンバ苟モ事ニ於テ大害ナキ者ハ亦當ニ曲ゲテ從フベシ若シ父母ノ命ヲ以テ非ト為シテ直クニ己ガ志ヲ行ハハ執ル所皆

⑤ 親ニ事フルニ不敬無禮ノ言ナク又敬無禮ノ行ナク其身ヲ正クシテ以テ父母ヲ安ンズ是

是ナリト雖モ猶不順ノ子トス況ンヤ未ク必シモ是ナラザルヲヤ 司馬溫公

孝ノ道ナリ 學則

⑤ 父母ニ事ヘテハ幾諫スリノ志ノ從ハザルヲ見テハ又敬シテ違ハズ勞シテ怨ミズ 論語

⑤ 父ハ子ノ為メニ隱シ子ハ父ノ為メニ隱ス 同上
⑥ 子ノ親ニ事フルヤ心ニ事フルヲ上トシ身ニ事フルヲ次ギトス最下ハ身ニ事ヘテ其心ヲ恤マズ又其下ハ之ニ事フルニ外面ノミヲ以テシテ其身ヲ顧ミ恤マザルナリ 呂新吾語錄

⑥ 愛敬ハ孝ノ心ナリ善ク養フハ孝ノ事ナリ心事内外兼子至ルヲ孝トス 自娛集

⑥今ノ孝ハ是能ク養フヲ謂
フ犬馬ニ至ルマデ皆能ク養
フ1アリ敬セズンバ何ヲ以
テ別タンヤ

盧氏白及
ヲ冒シテ
姑ノ難ヲ
防グ語

⑥唐ノ鄭義宗ノ妻盧氏畧々
書史ニ涉ル舅姑ニ事ヘテ甚
グ婦道ヲ得タリ嘗テ夜強盜
數十人アリ及ヲ持シ鼓譟シ
垣ヲ踰エテ入ル家人悉ク奔
竄ス姑ノ獨リ堂ニ在ルアリ
盧氏白及ヲ冒シテ往キ側ラ
ニ立ツ賊ノ為メニ挫撃セラ

⑥其身無禮不義ヲ

行ヒ父母ヲ憂ヘシ

メバ假令日ニ如何

ナル味好キ口腹ハ

養ヲ進ムトモ不孝

ナルベシ 初學訓

レ幾ント死セントス賊去テ後家人問テ曰ク群賊凶横ナ
リ何ツ獨リ懼レザル答テ曰ク人ノ鳥獸ニ異ナル所以ノ
者ハ其仁義フルヲ以テナリ吾不敏ナリト雖モ安ッ敢テ
義ヲ忘レン且比鄰ニ急アルモ尚ホ相趣キ救フ況ヤ姑ニ
在テ委棄スベケンヤ若シ萬一危禍アラハ豈獨リ生クベ
ケンヤト其姑毎ニ云フ古人歳寒ノシテ松柏ノ後凋ヲ知
ルト稱ス吾今ニシテ始メテ新婦ノ心ヲ知ルト

⑦居處莊ナラザルハ孝ニ非ザルナリ官ニ
ザルハ孝ニ非ザルナリ官ニ
莅ミテ敬ナラザルハ孝ニ非
ザルナリ朋友ニ信ナラザル
ハ孝ニ非ザルナリ戰陣ニ勇

⑦言テ誠ナラズ期

シテ信ナラズ難ニ

ナキハ孝ニ非ザルナリ五ツノ者遂ケザレバ裁ヒ其親ニ及テ敢テ敬セザランヤ礼記

七君ニ事ヘテ忠節ヲ盡サズ

官ニ備ハリテ其事ヲ敬マズ友ニ交ハリテ信アラズ軍ニ

臨ミテ臆病スルノ類ハ吾身

ノ行ヒ惡シキノミナラズ親

ノ名マデ穢シ禍ヲ招クナレバ尤モ恐レ慎ムベキナリ大和小學

七世俗ノ所謂不孝ノ者五アリ其四肢ヲ情リテ父母ノ養ヲ顧ミザル一ノ不孝ナリ酒ヲ飲ムトテ好ミ父母ノ養ヲ

臨ミテ勇ナラズ君ニ事ヘテ忠ナラザルハ不孝ノ大ナル者ナリ塩鉄論

顧ミザル二ノ不孝ナリ貸賤ヲ好ミ妻子ニ私シ父母ノ養

ヲ顧ミザル三ノ不孝ナリ耳目ノ欲ニ從ヒ以テ父母ノ戮

カシメヲナス四ノ不孝ナリ勇ヲ好ミ鬪恨シ以テ父母ヲ

危クス五ノ不孝ナリ孟子

八吾身ハ即チ親ノ身ナリ吾身ヲ立テ道ヲ行フハ即チ親

ノ身ヲ立テ道ヲ行フナリ親ノ悦ビ焉ヨリ大ナルハ莫シ

故ニ道德身ニ在レハ身ハ親

ト一タリ万里ヲ隔ツト雖モ

未ダ嘗テ一日モ親ニ離レス要言類纂

八豊前国下毛郡槻木村ニ淺吉ト云フ者アリ十二歳ノ時

孝子ノ親ニ事フルヤ居レバ則其敬ヲ致シ養ヘバ則其

淺吉速ク獄中ニ父ノ安否ヲ問フ語

孝子ノ親ニ事フルヤ居レバ則其敬ヲ致シ養ヘバ則其

其父罪アリテ獄ニ繫ガル淺
吉日夜悲ミ泣ゲキテ寢食ヲ
忘レ常ニ庭ニ起卧シケリ其
故ヲ問フニ曰ク父ハ獄中ニ
在リテ幾多ノ艱苦ヲ受ケ給
ヘリ之ヲ思ヘバ我身獨リ席
ニ安ンズルニ忍ビンヤト時
々五里ノ山路ヲ踰エテ中津
ニ至リ父ノ安否ヲ問ヒ歸レ
ハ則チ母ヲ慰ム此ノ如クス
ル一三年間屢身ヲ以テ父ニ
代ラン一ヲ請フ其誠中心ヨ

樂ヲ致シ疾メバ則
其憂ヲ致シ喪ニハ
則其哀ヲ致シ祭ニ
ハ則其嚴ヲ致ス五
ツノ者備ハリテ然
シテ後能ク其親ニ

リ發ス聞ク者感動セザルナ
シ藩主與平氏深ク其孝ヲ感
ゼテ遂ニ父ヲ赦シテ淺吉ヲ褒賞セラレ

事フルナリ 孝經

⑧ 夫飲食供奉左右ニ就キ養フハ人ノ子タルモノ、常職
ニシテ以テ孝トスルニ足ラズ惟善ク父祖ノ志ヲ繼キ善
ク父祖ノ業ヲ述ベ身ヲ立テ道ヲ行ヒ名ヲ後世ニ揚ゲテ
以テ父母ヲ顯ハシテ後初メテ孝トスルニ足ルナリ童子問
⑨ 養子ノ養家ニ事フル一義父ノ姓ヲ冒スナレバ情意行
キ届カザル者モ稀ニハアル習ヒ故ニ養家ノ事聊敬略ナ
ク敬敬ヲ極ムベシ日新館童子訓

第二 勉學

①人幼ニシテ學アハ將ニ之ヲ成就セントスルナリ既ニ成就セバ將ニ之ヲ行ハントスルナリ學ンデ成就スルト能ハズ成就シテ其學ヲ行フ能ハズンバ則烏ゾ貴シトセンヤニ程類焉

①今ノ學者書ヲ讀ミ文ヲ學ブノ事常ニ多ク徳ヲ演ミ行フカムルノ功常ニ少ナシ故ニ文學ハ漸ク進ムト雖モ然レモ徳行ノ進マザルヤ宜メ

①人タル者ハ必學

バズバアル可ラズ

學ヲ爲ス者ハ必道

ヲ知ラズバアル可

ラズ道ヲ知ル者ハ

必行ハズバアル可

ラズ 慎思錄

ナリ且文學ハ長進スト雖モ然レモ義理ヲ開明スル能ハザル者多シ此皆書ヲ讀ム人ノ當ニ耻ヅベキ所ナリ

慎思錄

①學問ニ活學問アリ死學問アリ學バント欲スル者ハ先ヅ死活ノ二道ヲ辨ヘ得ルヲ緊要トス 熊澤了介

②學問ニ有用ノ學アリ無用ノ學アリ有用ノ學ハ學問スレバ我が爲メ人ノ爲メ益トナルヲ云フ故ニ學問ノ道ハ

有用ノ學ヲ爲スベシ無用ノ學ヲ爲スベカフズ 大和俗制

②躬行ハ難シト雖モ然レモ當ニ勉ムベシ若シ躬ニ行ハ

②人間ノ精神ハ知

識ヲ以テ之ヲ完成

ガレバ則以テ諸ヲ已ニ有ス
ルナク言ハ空言タリ知ハ空
知タリ何ゾ學ト為サンヤ

居業録

スベキニ非ズ獨活
動ニ由ルナリ

アリストール

②人ハ孰ヲ重シト為スヤ身
ヲ重シトス身ハ孰ヲ大ナリ
ト為スヤ學ヲ大ナリトス天命ノ全キモ天爵ノ貴キモ身
ニ備ハル身亦重カラズヤ學ハガレバ則物ト同シ學ベハ
則以テ身ヲ守ルベク以テ民ヲ治ムベク以テ教ヲ立ツベ
シ學モ亦大ナラズヤ 方孝孺

③宋ノ范仲淹ニ歳ニシテ孤ナリ母夫人貧ニシテ依ル所
ナク再ヒ常山ノ朱氏ニ適ク仲淹稍長ジテ其世家ナリシ

范仲淹刺
苦勉學ス
ル語

①ヲ知リ感泣シテ常山ヲ去
リ南都ニ行テ學舎ニ入り一
室ヲ掃テ晝夜講誦ス其起居
飲食人ノ堪ヘザル所ナレト
仲淹自ラ刻苦シテ益學ヲ勉
メテリ居ルニ五年大ニ六經
ノ旨ニ通シ文章論說ヲ為ク
ルニ必仁義ニ本ヅク後朝ニ
事ヘテ將相トナリ卒シテ文
正ト謚ス

③朝ニシテ食セザレバ晝ニ
シテ饑ウ少ニシテ學ハガレ

③少ニシテ學ベバ
則壯ニシテ為ス
有リ壯ニシテ學ベ
バ則老イテ衰ヘズ
老イテ學ベハ則死
シテ朽チズ 言志晚
録

バ壯ニシテ惑フ饑ウル者ハ猶忍アベシ惑ヘル者ハ奈何トモス可ラズ 言志 堯録

③ 幼ニシテ學ブ者ハ日出ノ光ノ如シ老イテ學ブ者ハ燭ヲ秉テ夜行クガ如シ猶瞑目シテ見ル一ナキ者ニハ賢ルナリ 顏氏家訓

④ 木ハ繩ヲ受ケテ則直ナリ金ハ礪ニ就テ則利ナリ君子博ク學デ日ニ己ノ行ヒニ參看スル片ハ則智明ニシテ行ヒ過ナシ 荀子

④ 孔子曰ク吾嘗テ終日食ハズ終夜寢子ズ以テ思ヒシモ益ナシ學ブニ如カザルナリ 論語

④ 劍ハ利ナリト雖モ礪ガザレバ斷ゼ

④ 高山ニ登ラザレハ天ノ高キヲ知ラザルナリ先王ノ道ヲ聞カザレバ學問ノ大ナルヲ知ラザルナリ 大戴禮

④ 道學ナケレバ藝多クシテモ根本立タズ技藝ナケレバ事ニ通ゼズシテ相徳ノ助ケナシ 大和俗訓

⑤ 人ノ學問スル所以ハ入道ヲ知ラン一ヲ要ス唯書ヲ講ズルニミヨ學ト謂フ可ラズ忠信孝弟ノ道ヲ善カセズン

⑤ 人ノ學問スル所以ハ入道ヲ知ラン一ヲ要ス唯書ヲ講ズルニミヨ學ト謂フ可ラズ忠信孝弟ノ道ヲ善カセズン

材ハ美ナリト雖モ學バザレバ高カラズ 韓詩外傳

⑤ 學ヲ爲ス者ハ須ク先ツ學ンデ何事ヲ爲スヤヲ會得ス

⑤ 學ヲ爲ス者ハ須ク先ツ學ンデ何事ヲ爲スヤヲ會得ス

汗牛充棟、書ヲ讀ム、亦何リ入道ニ益アラシム都郵問

五 學ヲ爲スハ最實ヲ務ムルヲ要ス一理ヲ知テ一理ヲ行

ヒ一事ヲ知テ一事ヲ行ヘバ自然ニ理ト事ト相安ンシ虚

泛ニシテ切ナラザルノ患ナシ薛文清

五 書ヲ讀テハ紙上ニ義理ヲ求ム可ラズ須ク自家身上ニ

就テ推窮スベシ四名公語錄六 學ヲ爲シ書ヲ讀ムニハ須

ベシ然ラザレバ則

終身拮据スト雖モ

何ゾ已ニ益アラシム

静寄軒語錄

六 學ハ疑ヲ知ルヲ

貴ブ少シク疑ヘバ

少シク進ミ大ニ疑

ヘバ大ニ進ム疑ハ

覺悟ノ機ナリ一番

覺悟セバ一番長進

ス 劉氏入譜

ク是煩ニ耐ヘ意ヲ細ニシテ理會シ去ルベシ皮ヲ去リ盡シテ方ニ肉ヲ見肉ヲ去リ盡シテ方ニ髓ヲ見ヨ朱子

六 書ヲ讀ムニハ只尋思セン

一ヲ欲ス蓋義理ノ精深ナル

惟尋思用意以テ之ヲ得ベシ

函筭ニシテ煩ヲ厭フ者ハ決

ミテ成ルヲアルノ理ナシ前

輩當テ説ク後生才性ノ人ニ

過グル者ハ畏ル、ニ足ラズ惟書ヲ讀ミテ尋思推窮スル

者畏ルベキノミト多識編

⑦學者ハ心慮紛亂シテ寧靜ナル能ハザルヲ患フ程子

⑦讀書ノ散漫ナル

⑦西諺ニ曰ク常ニ多忙ナルモノハ做シ得ルコトナシ又

懶情中ノ最甚シキ

曰ク草木モ屢々植エ替フレバ繁茂スルナレ

モノナリ人ヲシテ

⑧二書ヲ以テ之ヲ言ヘバ一書ニ通シテ後一書ニ及ブ

勢力ヲ失ハシムル

書ヲ以テ之ヲ言ヘバ篇章句字首尾次第亦各序アリテ乱

一焉ヨリ太シキハ

ル可フズカノ至ル所ヲ量リ謹テ之ヲ守リ字ハ其訓ヲ求

莫シロベルトソシ

メ句ハ其旨ヲ索メ未ダ前ヲ得ザレバ敢テ後ニ求メズ未

⑧一時ニ幾種ノ書

ダ此ニ通ゼザレバ敢テ彼ニ志サズ是ノ如クセバ踈易凌

ヲ看ル一ハ心志ヲ

躐ノ患ナカラシ 朱子讀書法

弱クセシムルナリ

⑧學ハ漸ヲ以テ日ニ進ムヲ貴カ天下ノ極速ナル固ヨリ

睡卧ニ愈ル一幾モ

入跡ノ及バザル所ノ者アリ然レ氏日々カメ征キテ已マ

ナシ

ガレバ則亦至ラザル所無キナリ學ノ源流ハ遠キモ苟モ下學ノ功日ニ進デ患マザレ

バ久クシテ則以テ上達スベシ 慎思錄

⑨土積リテ山ヲ成セバ則棟樑モ焉ニ生ズ學積リテ聖ト成レバ則富貴尊榮焉ニ至ル 說苑

⑩書ヲ讀ム第一ノ法ハ多ク讀マザレバ則記スルヲ能ハズ記セザレバ則義理ヲ考窮スルヲ無キナリ 張子

⑪林春齋ハ羅山ノ第三子ナリ年十七始テ江戸ニ入り父ニ從テ業ヲ受ク文藝日ニ益々進ム後父ノ職ヲ襲ギ博士トナル屢々幕府ヲ奉ジ編著極メテ多シ人之ニ謂テ曰ク

林春齋 命ヲ武夫ニ擬シ著作スル始

⑨人ノ學ヲ爲スヤ 歷年ノ久シキ積累 シテ息マガレバ愚者ト雖モ漸ク進ンテ開明ナルベシ積

累ノ道又專一ナルト勤苦トニ在リ

慎思錄

少コシク思慮ヲ省キ以テ攝養ヲ致セト春齋輒チ曰ク武入兵ヲ執テ戰フ死ヲ効シテ功ヲ建ツ學者書ヲ讀ミ言ヲ立テ爲メニ其性命ヲ墮スバ固ヨリ望ム所ナリ丈夫ノ志マ所ハ一死ヲカヲ用フルニ非ザレバ必大成スル能ハズ豈唯學問ノミナランヤト益カヲ述作ニ用フ五經皆私考アリ本朝通鑑國史實錄與羽軍記等數十種ヲ著ハシ本集凡ソ百二十卷名ケテ鷲峰文集ト曰フ歿スル年六十二私ニ文穆ト謚ス

第三省察

①一言ニシテ天地ノ和ヲ傷
 リ一事ニシテ終身ノ福ヲ折
 ス切ニ須ク点檢スベシ陳眉
 ②事ニ處シ物ニ應ズルハ已
 ガ偏好ニ徇フベカラズ須ク
 當ニ為スベキト為スベカフ
 ガルトト理ニ當ルト理ニ當ラ
 ザルトトヲ省察スベシ居業錄
 ②人ヲ處スルハ己ノ意ニ任
 ズ可カラズ人ノ情ヲ悉スヲ

①一毫毛省察至ラ
 ガレバ即チ處スル
 ニ宜キヲ失フ薛文清
 ②凡事ヲ處スルハ
 熟々思案シ審カニ

要ス事ヲ處スルハ己ノ見ニ
 任ズ可カラズ事ノ理ヲ悉ス
 ヲ要ス畜德錄
 ③一事ニハ一事ノ理アリ人
 能ク其心ヲ安定ニシ其理ニ
 順ヒテ以テ之ニ應ズレバ則
 事既ニ所ヲ得テ心モ亦勞セ
 ズ真西山
 ③大小トナク纔ニ心ニ安ン
 ゼザル所アルヲ覺エバ便チ
 斬絶シテナス勿レ此ノ如
 クスレバ乃チ其本心ヲ遂ケ

處置スベシ是過ヲ
 寡クシ悔ヲ寡クス
 ルノ道ナリ初學知要
 ③何事ヲ行フニモ
 疑ハシキイアラバ
 推量ヲ以テ是ヲ決

ル一ヲ得ン 畜徳録

④天下ノ難事ハ必易キニ作
リ天下ノ大事ハ必細キニ作
ル老子

④日間時々刻々緊々ニ自己
自心ノ上ニ於テ存察シカラ
用フル一毫モ懈怠ス可ラ
ズ讀書錄

⑤一言一行ヲ以テ輕々シク
人ヲ毀譽ス可ラズ又妄ニ人
ノ毀譽ヲ信ジテ輕々シク人
ヲ是非ス可ラズ其實奈何ヲ

斷スベカラズ

倭小學

④患ハ常ニ照察ノ

及バザル所ニ伏シ

過ハ常ニ意慮ノ周

カラザル所ニ生ズ

真西山

顧ミルノミ大凡人各能アリ
不能アリ其能クセザル所ヲ
以テ其能クスル所ヲ捨ツ可
ラズ其能クスル所ヲ以テ其
能クセザル所ヲ信ズ可ラズ

初學知要

⑤小惡ヲ以テ大善ヲ捨ハズ
衆短ヲ以テ一長ヲ棄テズ朱子

⑥事ハ審カニ處スルヲ貴ブ
古人謂フ天下甚ニ事カ忙ニ
因テ後錯了セザルト真ニ名
言ナリ許文清

⑤言ハ多キヲ務メ

ズシテ必其謂フ所

ヲ審ニシ行ハ多キ

ヲ務メズシテ必其

由ル所ヲ審ニスベ

シ荀子

六 始メヲ慎ムノ道ハ克ク念
フニ在ルノミ蓋克ク念ヘバ
則輕率急遽ノ過ナシ凡事ノ
過誤アルハ克ク念ハマシテ
而シテ輕率ニ決スルニ因ル
ナリ 慎思錄

六 思慮シテ善惡ヲ善ク明ラ
ク行フベシ理明ニナリテモ
決斷強カラザレバ行ハレズ
大和俗訓

七 事ヲ執ルニ敬シ己ヲ修ム

ルニ敬ヲ以テシ事々点檢シ
テ敢テ妄ニ爲ザズ君子ノ學
孰カ之ニ過ギン 居業錄

七 事毎ニ早ク行ハズシテ静ニ善ク思案シテ是非ノ疑ハ
シキ一ハ自ラ決定セズ人ニ問フテ我善惡ヲ考フベシ急
ギテ遽ニ事ヲ決定スベカラズ早ク決斷スレバ過多シ
大和俗訓

七 事ハ人ノ説ヲ聽從スルヲ要スト雖モ亦人ノ爲メニ惑
亂セラル可ラズ擇ブテ須ク
精クスベシ 居業錄

七 自ラ用ヒマシテ問フテ
好ムハ固ヨリ美ナリ然トモ

六 急ナル事アラバ
殊更善ク思案シテ
詳ニ行フベシ急ギ
テ心躁シク静ナラ
ザレバ思案ナクシ
テ必誤アリ悔アリ

大和俗訓

七 人ヲ處スルハ已
ノ意ニ任ス可ラズ

其是非ヲ察セズンバアル可
ラス故ニ之ニ繼グニ好察ヲ
以テスベシ玉少湖

八凡國家ノ禮文制度法律條
例ノ類若シ能ク熟觀シテ之
ヲ深考セバ則以テ世務ニ應
酬シテ時宜ニ展ラザルコト
ラン薛文清

八學ヲ為スニハ時々處々ニ
ツキ是工夫ヲ做スベシ至鄙
至陋ノ處ト雖モ皆當ニ謹畏
ノ心ヲ存シテ忽ニス可ラス

八只一事タリトモ心ニ留メ
ザレバ便チ一事其理ヲ得ザ
ルコトアリ一物モ心ニ留メザ
レバ便チ一物其所ヲ得ザル
コトアリ呂新吾語錄

八凡人ト言ハバ即チ其事ノ
可否ヲ思フベシ可ナラバ則
諾シ不可ナラバ則諾スルコト
ナカレ若シ可否ヲ思ハズシ
テ輕々シク之ヲ諾シテ事或
ハ行フ可テザルハ則必礙

程子

人情ヲ悉スヲ要

ス事ヲ處スルハ已

ノ見ニ任ス可ラス

事ノ理ヲ悉スヲ要

ス畜德錄

八目視ント欲セバ

當ニ其邪ト正トヲ

思フベシ耳聽カン

ト欲セバ當ニ其是

ト非トヲ思フベシ

口言ハント欲セバ

當ニ其可ト否トヲ

ノ言ヲ踐ム能ハク 讀書録

⑧ 克ク念フテ而シテ後ニ言

ヒ克ク念フテ而シテ後ニ行

フ言行常ニ當ニ克ク念フ

後ニ在ルベシ一言一行須ク

心ヲ用ヒテ黙檢スベシ妄ニ

發動ス可ラズ是言充メ寡ク

行悔イ寡キノ道ナリ 慎思録

⑨ 士君子一タビ口ヨリ出シ

テ後悔ヲ言ナク一タビ手ヲ

動カシテ更改スルノ事ナキ

バ誠實ニ思慮スルガ故ナリ

省ルベシ 讀書録

⑨ 西諺ニ曰能ク謹

守スレバ災難來ラ

ズ又曰小惡ニ門戸

ヲ開ケバ大惡續キ

テ出ツ

呂新吾語錄

⑨ 君子ニ九思アリ視ルニ明ヲ思ヒ色ハ温ヲ思ヒ貌ハ恭

ヲ思ヒ言ハ忠ヲ思ヒ事ハ敬ヲ思ヒ疑ハシキハ問ハン

ヲ思ヒ忿ニ難ヲ思ヒ得ルヲ見テハ義ヲ思フ 論語

⑨ 天草時定幼ニシテ穎異ナリ書ヲ能クス八歳ノ時江戸

ニ至ル或之ヲ尾張侯義直ニ薦ム義直召シ見テ大字ヲ書

セシム末ニ至テ紙幅迫窄ス時定輒チ縦筆直下シ引テ首

席ニ至ル觀ル者其豪邁ヲ歎ズ義直獨リ以爲ラク此兒幼

ニシテ貴ヲ陵グノ心アリ長

セバ必ズ賊フナサン近ツク

ベカラズト遂ニ之ヲ祿セズ

後果シテ亂ヲ作ス人皆義直

⑩ 凡人事ヲ區處ス

ルハ當ニ先ツ其結

天草時定 縦筆紙外ニ書スル

ノ明鑑ニ服ス

⑩學者其智ヲ廣メント欲セバ必先ヅ多聞多見ヲ要スベシ蓋多聞多見ニ非ザレバ何ゾ以テ智ヲ廣ムルニ足ランヤ聞見ノ智ヲ廣クシテ之ニ繼グニ精思ヲ以テスルハ乃チ其真智ヲ闡明スル所ナリ

慎思錄

⑪書ヲ讀ムニモ先ヅ且ラク虛心ニシテ其文詞指意ノ歸スル所ヲ考ヘ然ル後ニ以テ其義理ノ在ル所ヲ要ムベシ

學的

局ノ處ヲ慮リ而シテ後手ヲ下スベシ
楫ナキノ舟ハ行ル
勿レ的ナキノ箭ハ
發スル勿レ

言志堂錄

⑩心中ニ安ンゼザル事ハ多ク爲サザルニ利アリ

吉田兼好

第四 交際

①和シテ而シテ敬シ敬シテ而シテ和スルハ衆ニ處ルノ道ナリ

讀書錄

②世ニ交ハルニ言寡ク事ヲ能ク勉メ謙リテ吾才ニ誇ラズ人ヲ敬ヒテ侮ラズ人ヲ誇ラズ人情ヲ知テ人ヲ怨ミ谷メズ世變ヲ知テ時宜ニ應ジ

①人ト交ルニハ須ク是情ヲ通ズベシ
若シ直ニ言語ノミヲ以テ人ヲ籠絡セ

信義ヲ堅ク守テ約ヲ變ゼズ
身ヲ潔クシテ財利ノ穢ナシ
此ノ如クナレバ過少クシテ
何處ニテモ人ノ惡ミ謗ルベ
キ様ナシ大和傳訓

豈能ク人ヲ感ゼ
シメンヤ 西疇常言

鮑叔牙管仲ヲ厚遇スル語

一齊ノ鮑叔牙ハ管仲ノ友ナリ初メ管仲貧シクシテ自ラ
給スル能ハズ鮑叔之ガ爲ニ賑卹シテ敢テ仲ヲ侮ラズ桓
公位ニ即クニ及ビ鮑叔仲ヲ進メテ相トシ身ヲ以テ之ニ
下ル桓公管仲ノ謀ヲ以テ天下ニ霸タリ天下管仲ノ賢ヲ
稱セズシテ鮑叔ノ能ク人ヲ知レルヲ稱ス管仲ノ語ニ曰
ク吾嘗テ鮑叔ト賈シ財利ヲ分ツニ多ク自カラ與フレ
鮑叔我ヲ以テ貪トセズ我貪ナルヲ知レバナリ吾嘗テ鮑

叔ノ爲メニ事ヲ謀テ窮困スレモ鮑叔我ヲ以テ愚トセズ
時不利アルヲ以テナリ吾嘗テ三タビ戰フテ三タビ走ル
鮑叔我ヲ以テ怯トセズ我老母アルヲ知レバナリ我ヲ生
ス者ハ父母我ヲ知ル者ハ絶子ナリト後世傳ヘテ以テ美
談トス

一誠ヲ積ミテ而シテ人感ゼ
ザル者ハ未ダ之アラザルナ
リ從政名言

二交際ノ間若シ情意疎薄ニ
シテ音問ヲ曠闕スルトアラ
バ只當ニ吾志ノ厚カラザル
トヲ謝スベシ外事ノ紛冗ナ

二古ノ交ハル者ハ
其義敦クシテ以テ
正シク其誓言信ニシ
テ以テ固シ 蔡邕

村重秀吉
二信義ヲ
盡ス詬

ルニ託シテ其疎略ヲ偽リ飾ル可ラズ是細事ト雖モ過ヲ
文リ自ラ欺クナリ忠信ノ道ニ非ズ慎思録

〔三〕羽柴秀吉荒木村重ト友トシ善シ織田信長讒ヲ信ジテ
村重ヲ殺サントス村重怖レテ遂ニ叛ス秀吉其讒ニ由ル
ヲ以テ信長ニ請ヒ往テ村重ニ説キ其叛ヲ止ム辭意懇到
ナリ村重納ル、一能ハズ其臣河原林越後秀吉ヲ殺シテ
以テ信長ノカヲ殺ガント請フ村重曰ク汝ガ言吾ガ利ヲ
計ルナリ然レ秀吉ノ我ニ於ケル斷金ノ交リヲ結フテ久
シ今我家ノ將サニ亡ビントスルヲ憫ミ又我害心無キト
ヲ知ル是ヲ以テ來リ諫ム夫レ窮鳥懷ニ入ル獵夫モ之ヲ
殺スニ忍ビズ况ヤ朋友ノ信義ヲ以テ來ル者ヲヤ若シ之
ヲ擊タバ是禽獸ニ劣ルナリト遂ニ秀吉ニ酒ヲ飲マシム

色ヲ和ゲテ款語スル一之ニ
久シ秀吉ノ去ルニ及デ手ヲ
携ヘ之ヲ廳外ニ送り相與ニ
別レヲ惜メリ
〔二〕西諺ニ曰ク詐欺ノ和陸ハ
公然ノ戰闘ヨリモ危害アリ
〔三〕僚友ニ處スルニハ須ク能
ク肝膽ヲ披瀝シ視ル一同恥
ノ如クスベシ面従ス可ラズ
ト雖モ亦乖キ忤フ可ラズ黨
スル所アルハ不可ナリ挾ム
所アルハ不可ナリ媚疾スル

〔三〕人共ニ天地ノ間

ニ生ル同氣ニ非ザ

ルハ莫シ其善ヲ扶

ケ其惡ヲ沮ムハ義

ノ當ニ然ルベキ所

安ゾ彼我ノ意アル

所アルハ最モ不可ナリ 言志

③呂氏ノ郷約ニ曰ク凡同約 既録

ノ者ハ德業相勸、過失相規シ禮俗相交リ患難相恤ム善

アレバ則籍ニ書シ過アリ若シクハ約ニ違フ者モ亦之ヲ

書シ三タビ犯シテ罰ヲ行フ峻メガル者ハ之ヲ絶タン ハ

④郷里相交ハルノ道ヲ云ハハ常ニ歡ビ吊ヒヲ述ベ病ミ

煩ヒヲ問フハ定リタル事ト云ヒナガラ七禮義ヲ盡シ信

實ノ志ヲ致スベシ水火盜賊不虞ノ難アラバ互ニ合カシ

テ随分救ヒ援クベシ行迹ノ

惡シキ人ヲハ幾度モ懇ニ諫

ムベシ賢徳アル人ヲハ敬ヒ

學問アル人ヲハ親ミ才藝ア

ヲ得ン 四名公語録

④凡都鄙ヲ論ゼズ

同ジ郷村ニ住居ス

ル人ヲハ譽メ顯ハシ無能ナ

ル人ヲハ教ヘ誘キ争ニ及ブ

者ヲハ取扱ヒ憂ニ沈ム人ヲ

ハ問ヒ慰メ孤兒寡婦老病不

具ナル人ヲハ傷ミ困窮無カ

ノ人ヲハ賑ハシ濟フベシ然

ラバ一郷ノ人思ヒ合フテ一

家ノ親ミニ同ジカラン争テ

和睦セガルヲヤアルベキ

六諭衍義大意

④説苑ニ曰ク北方ニ獸アリ蝥ト云フ前足ハ鼠ノ如ク後

足ハ兔ノ如シ是ノ獸甚ダ強々巨虚ノニ獸ヲ啖シ甘草ヲ

ル人ハ先祖以來常

ニ行キ通ヒ互ニ久

シク馴習スレバ其

筋目尤モ忘ル可ラ

ズ 六諭衍義大意

得レバ必齧ミテ二獸ニ遺クル故ニ二獸人ノ來ラントス
ルヲ見レバ必ズ蟹ヲ負フテ走ル蟹其性ニ獸ヲ愛スルニ
非ズ其足ヲ假ルガ為メナリニ獸モ亦蟹ヲ愛スルニ非ズ
其甘草ヲ遺クルガ為メナリ夫レ禽獸昆蟲スラ猶ホ相假
テ相ケ報スル一アリ況ヤ士
君子ヲヤ

五 人ニ交ハルニハ

五 汎ク交ハルノ道其長ズル
所ニ與ミシテ而メ其短ナル
所ヲ避クレバ則歡心ヲ失ハ
ズ 辨奇
五 君子ハ人ノ美ヲ成シ人ノ
惡ヲ成サズ彼ノ過失相規ス
始メ終リ厚クスベ
シ薄クス可ラズ或
ハ始ニ厚ケレド終

ヲ名トシテ人ノ惡名ヲ成サ
シムル者ハ眞ニ刻薄ノ小人
ナリ 塵世儀

五 守ル所ノ者ハ道義行フ所
ノ者ハ忠信惜ム所ノ者ハ名
節之ヲ以テ身ヲ修ムレバ則
道ヲ同クシテ相益シ之ヲ以テ國ニ事レバ則心ヲ同クシ

リニ薄クスルハ人
ニ交ハル道ヲ失ヘ
ルナリ 初學訓

テ共ニ濟ス終始一ノ如シ是君子ノ用ナリ 歐陽修
五 管原道真公ハ王室ニ仕ヘテ忠誠ナル人ナリシガ嘗テ

藤原時平ノ為ニ讒セテレ筑前太宰府ニ遷サレタリ然ル
ニ時平ノ弟忠平ハカ子テ公ト深キ交リアリシヲ以テ免
故ニモ拘ラズ常ニ遠ク西國ノハテ遣使ヲ遣リ物ヲ贈

忠平道真
ニ交誼ヲ
全フスル
語

・皇位金神
卷之十一
皇
皇
皇

リナドシテ更ニ平日ノ友誼ヲ失ハザリシ

⑥骨肉ノ貧ナル者モ疎ンズルヲ莫レ他人ハ富貴ナリト

テ厚クスルヲ莫レ其一切ノ

魏遺ハ須ク常アルベシ富貴

ヲ以テ豊ヲ加ヘ貧賤ナリト

テ薄ヲ致ス勿レ願體集

⑥細井徳民ハ即チ紀平洲ナ

リ博愛篤厚ニシテ善ク衆ヲ

容ル其江戸ニ移ルヤ其友小

河某飛鳥某皆妻子ヲ挈テ來

リ寄ル是ニ於テ三家變ヲ同

クスル丁四年小河飛鳥共ニ

⑥人ノ富メル時親

マズ貧キ時疎ンゼ

ガルハ真ノ大丈夫

ナリ富メル時進ミ

貧シキ時退クハ真

細井平洲
友人ノ家
族ヲ撫養
スル事

徳民ノ父正長ニ事ル父ノ

如クシ徳民ト交ル兄弟ノ

如シ其婦三人亦叔姪ノ如ク相親睦シ毫モ厭色ナシ鄰里

始メハ其異姓ニシテ同居セルコトヲ知ラズ正長ヲ賀シ

テ曰ク三賢士三孝婦三順孫アリ翁ノ福ヲ享クル何ゾ

此ニ至ルヤト

小人ナリ願體集

小河飛鳥別居ノ後小河死ス徳民之ヲ喪祭スル家人ノ

如シ飛鳥亦死シテ歸スル所ナシ又之ヲ喪祭スル小河

ノ如クシ妻女ヲ其家ニ養フ彼ニ其女ノ為メニ資装ヲ具

ヘテ之ヲ嫁セシム小河ノ子長シテ之ヲ尾張藩ニ薦メ儒

官トス此ノ他遠方ノ諸生徳民ノ塾ニ在ル者死スルトキ

ハ為メニ費ヲ損テ石ヲ立テ其姓名ヲ記ス者凡ソ數十人

小
學
家
身
監
甫
卷
之
十
一
三
六
三
六
三
六

ナリト云フ

⑥人ニ贈り物スルハ心ヲ用フベキ事ナリ總テ惡シキ物ヲ贈ルハ贈ラザルニ劣リテ耻カシ贈り物ニ由テ人ノ心ノ厚薄顯ハル家道訓

⑦君子ノ交ハリヤ道義ヲ以テ合ヒ志氣ヲ以テ親ム淡キ水ノ如シ故ニ能ク久シ小人ノ交ハリヤ勢利ヲ以テ結ビ酒食ヲ以テ親ム甘キ醴ノ如シ故ニ怨ミ易シ智是篇

⑦ 勢カアルヲ以テ交ハル者ハ勢傾ケバ則絶ユ利ヲ以テ交ハル者ハ利窮マレバ則散ズ文中子

其平昔ノ父母ニ於ケル祖宗ニ於ケル兄弟ニ於ケル戚族ニ於ケル朋友ニ於ケル鄰里郷黨ニ於ケルヲ觀ルニシ其重ンズル所ト忽ニスル所トニ即キテ平心ニ細カニ之ヲ察スレバ則其肺肝ヲ見ルカ如クナラン類體集

⑧ 一族ノ人ニハ賢アリ不肖アリ賢者ニ在テハ當ニ祖宗均愛ノ心ヲ體シテ曲々保護ヲ加ヘ一人モ安堵セザル

郭子儀
ノ為メ私
怨ヲ懐カ
ナレト

ナク富貴貪賤ニヨリ處置ス
ルノ母カルベシ 敬履祥
唐ノ郭子儀初ノ李光弼ト
俱ニ安思順カ牙將タリ二人
相善カラズ席ヲ同クスト雖
モ言ヲ交ヘズ後子儀思順ニ
代ハリテ將タリ光弼誅セラ
レシトヲ恐レ乃チ跪キ請テ
曰ク死ハ甘心スル所ナリ俱
妻子ヲ貸サントヲ乞フト子
儀堂下ニ趨リ其手ヲ握リテ
曰ク今日國亂レ主辱メラル

親戚ニ在テハ當ニ
親戚ノ心ヲ失ハガ
ルベシ以テ鄉黨朋
友ニ至ルモ亦之ノ
如クシ朝廷邦國ニ
モ亦之ノ如クス

張揚園訓子語

公ニ非ズンバ定ムルノ能ハ
ズ僕豈敢テ私忿ヲ懐カンヤ
ト因テ涕泣シテ勉ムルニ忠義ヲ以テシ之ヲ薦メテ節度
副使トス遂ニ同ク賊ヲ破リテ唐室ヲ恢復シ纖毫ノ猜忌
ナシ

第五 養生

一周ノ季歷ノ妃大任ハ賢德
アリ其文王ヲ娠メルヤ愈其
身ヲ慎ミテ味正シカラザレ
バ之ヲ食セズ席正シカラサ

一 上帝ヲ敬信シ吾
身ヲ恭敬スルハ凡

文王ノ母
胎教ヲ懐
ハ事

レバ之ニ坐セズ目ニ邪色ヲ
視ズ耳ニ淫聲ヲ聽カズシテ
能ク其胎教ヲ修メシカハ文
王生レテ天資明聖ニシテ終

ニ周室ノ宗トナレリ君子大任ノ能ク胎教ヲ爲セシヲ稱
賛ス

①人ノ身ハ至テ貴ク重クシテ天下四海ニモ易ヘ難キ物
ナルニ是ヲ養フ術ヲ知ラズ慾ヲ恣ニシテ身ヲ亡シ命ヲ
失フヲ愚ナル至ナリ身命ト私慾ト輕重ヲ能ク慮リテ日
々ニ一日ヲ慎ミ私慾ノ危キヲ恐ル、一深キ淵ニ臨ムガ
如ク薄キ氷ヲ踏ムガ如クナラバ命長クシテ終ニ殃ナカ
ルベシ是樂マザル可シヤ命短ケレバ天下四海ノ富ヲ得

百ノ事業根元ナ リミルトン

テモ益ナシ寶ノ山ヲ前ニ積
ミテモ用ナシ然レバ道ニ從
ヒ身ヲ保チテ長命ナルホト
大ナル福ハナシ 養生訓

①健康ハ金銀財宝ニ勝ル余
ハ健康ニ比較スベキ富貴ア
ルヲ知ラズシテハ

②貝原益軒攝養ヲ善クシ老
ニ至テ猶ホ矍鑠トシテ衰ヘ
ズ讀書著作壯時ノ如シ六十

ニシテ和漢名數増補ヲ作り
六十七ニシテ大和廻リヲ作

益軒攝主
シ壽ヲ有
ツ事

②人ノ身ハ天地父

母ノ恵ミヲ受ケテ

生レ又養ハレタル

我身ナレバ我私

物ニ非ズ

天地ノ賜モノ父母

リ七十四ニシテ筑前續風土
 記及び點例ヲ作り七十五ニ
 シテ諸菜譜ヲ作り七十九ニ
 シテ大和本草ヲ作り八十一
 ニシテ樂訓ヲ作り八十四ニ
 シテ養生訓ヲ作ル其著ハス
 所ノ慎思錄ニ云ヘルアリ
 魏志ニ稱ス胡昭怡々トシテ
 愛セザルナシ僕隸ト雖モ
 必禮ヲ加フ年八十ニシテ書
 籍ニ倦マザル者胡徵君ニ於
 テ之ヲ見ルト益軒謂ラク胡

ノ遺セル身ナレバ
 慎ミテ能ク養ヒテ
 毀ヒ傷ラズ天年ヲ
 保ツベシ是天地父
 母ニ事ヘ奉ル孝ノ
 本ナリ 養生訓

昭愛敬ノ徳及ブベカラズ以テ法トスベシ八十書ヲ讀デ
 倦マザルガ如キハ吾耄耄ナリト雖モ企及ガヘシト共老
 健知ルベキナリ
 (二) 大ナル身命ヲ我私ノ物トシテ慎マズ飲食私慾ヲ恣ニ
 シ元氣ヲ傷ヒ病ヲ求メ生レ
 付キタル天年ヲ短クシテ早
 ク身命ヲ失フ天地父母ニ
 對シ不幸ノ至リ愚ナル哉 養生訓
 (三) 事フルヲ執レカ大ナリト
 ス親ニ事フルヲ大ナリトス
 守ルヲ執カ大ナリトス身ヲ

(三) 我身病ナケレバ
 之ヲ保攝愛養シ病
 アレバ之ヲ警畏慎
 重ス其工夫ハ須ラ

守ルヲ大ナリトス 孟子

③ 天地ノ中ニ萬物アリ萬物

ノ内人バカリ貴キモノハ莫

シ故ニ尚書ニ人ハ萬物ノ靈

ナリト云ヘリ靈トハ心ニ明

ナルタマシヒアルヲ云フ

大和俗訓

④ 其身ヲ失ハズシテ能ク其

親ニ事フル者ハ吾之ヲ聞ケ

リ其身ヲ失フテ能ク親ニ事

フル者ハ吾未ダ之ヲ聞カザ

ルナリ 孟子

クモ廢闕ス可ラズ

自娛集

④ 人ノ子タル者ハ

高キニ登ラズ深キ

ニ臨マズ苟モ此言ラ

ズ苟モ笑ハズ親ヲ

⑤ 心ハ静ナラント欲シ形

ハ動カント欲ス心静ナラ

ザレバ則理ヲ明ニスル能

ハズ且精神存セズ形動カザ

レバ則氣血運ラス飲食滯塞

ス俱ニ軀ヲ養フ所以ニ非ザ

ルナリ 慎思録

⑤ 讀書ノ餘間ニハ以テ游泳

シ精神ヲ發舒シ性情ヲ休養

ス 陳茂卿

⑥ 食後ニハ數百歩歩行シテ

氣ヲメグラシ食ヲ消スベシ

辱シメントヲ懼レ

テナリ 礼記

⑤ 飲食淡薄ニシテ

身ヲ勞動スレバ食

氣滯ラス氣血環リ

脾胃破レズシテ生

養生訓

ヲ養フニ宜シ

程伊

名醫運動
ノ弊ノ病
ヲ治スル

〔六〕英國海濱ノ一部ニ消化機
不良ヲ治スルニ大名ヲ得タル一醫アリ患者ヲ療スルニ
別ニ藥名ヲ用ヒズ只飲食ノ節度ト戶外ノ運動トヲ勤メ
タリ或日中年ノ人來リテ治ヲ乞ヒタリケレバ之ヲ診見
シテ是レ富人ニシテ進退常ニ車ニ乘リ榮耀ノ事何レモ
辞セザルヲ知り共ニ馬車ニ
乘リテ數里ヲ馳クルトヲ勤
メ凡ソ五里モ隔タリタルト
鞭ヲ遺シ患者ニ下リテ取リ
テ得サセヨト云フ患者車ヨ
リ下ルヤ否ヤ君步行シテ還

〔六〕所好ヲ以テ身ヲ
害ラテ勿レ嗜欲ヲ
以テ生ヲ妨グル

勿レ 説苑

ルバシト云ヒステ家路ニ向
フテ馬ヲ驅リタリ患者止ム
ヲ得ズ步行シテ歸リケルガ忽チ飲食ノ甘美ヲ覺エ醫師
ノ方便ヲ大ニ感シ爾後常ニ戶外ニ運動シタレバ終ニ病
ヲ痊愈シタリ故ニ運動ハ療法ノ最第一ナリトス

〔六〕酒ハ以テ飲ヲ合スト言ヘバ只興ヲ添フル程ニ勤ムベ
シ古人モ酒ハ微醉ニ飲ミ花ハ半開ニ觀ルト言ヘバ主モ
客モ少シ足ラザル程ニ飲ムベシ 家道訓

〔七〕益飲食ハ元是身ヲ養フ所
以ノモノタリ若シ口腹ノ欲
ニ徇ヒテ其身ヲ傷害スル此
身ヲ養フ所以ノ者ヲ以テ身

〔七〕善ク身ヲ養フ者
ハ必シモ美食セズ

ヲ害フナリ 慎思録

⑦ 飲食ノ養ハ人生日用事一

ノ補ヒニシテ半日モ缺ギ難シ然レモ飲食ハ人ノ太欲ニシテ口腹ノ好ム所ナリ其好メルニ任セ恣ニスレバ節ニ過ギテ必脾胃ヲ傷リ諸病ヲ生シ命ヲ失フ 養生訓

塩鉄論

⑧ 衣ヲ着クルト既ニ久シケレバ則垢膩ヲ免レズ頌ク勤

メテ洗滌スルヲ要スベシ破レ綻レバ則之ヲ補綴シテ完潔ニセヨ凡日中着ル所ノ衣服ハ夜卧ス時ニ必更ムレバ則登虱ヲ藏サズ即散壞セズ 童蒙須知

⑨ 健康ヲ保持スル方法ヲ知レル婦人英ノ東部ニ妹ノ住

スルヲ訪ヒ行キシニ妹ハ性質善良ナレモ鄙遠ニアル故習俗魯直ニシテ攝生ノ法ヲ知ラズ一家族沼ノ近邊ニ住

賈婦衛生法ヲ妹ニ説ク語

居シ其地卑クシテ冬ハ厨房

ニ汚水一寸モ止ルルアリ姉

一家ノ安否ヲ問フニ妹答ヘ

テ此ノ一家ニ不吉ノ因アル

ニヤ妾此ニ來リシ後醫療ヲ

請フト間斷ナシ曩者ニ夫ハ

刺シキ麻木痺軟ヲ病ンデ四

肢幾ンド用ヲナサズ妾ハ常

ニ感冒ヲ患ヒテ治スルトナ

シ小兒ハ冬毎ニ頸項ニ腫物

ヲ生ズ殊ニ去年ノ十月一家

疫熱ニ罹リ二子一僕ヲ喪ヒ

⑧ 居室ニ庭中モ常

ニ掃除シテ潔クス

ベシ斯ノ如クスレ

バ氣ヲ養ヒ心ヲ潔

クス暗ク穢ラハシ

ケレバ心氣ヲ養ト

ナラズ 家道訓

タリ斯ル凶災ハ何ノ祟ナル
ヲ知ラズト歎キケレバ姉聞
テ是汝ガ不幸ニアラズ只不戒心ニアルノミ一家ノ病苦
ハ他ナシ濕毒アル沼ニ接セル屋ニ住ム故ナリ如カズ他
ノ良地ヲ撰ンデ移住センニハト説キケレバ妹稍理會シ
然ラバ明日ニモ他所ニ移住スベシ然レバ若シ禍祟ノ予
輩ニ纏縁シテ災スルアラバ何ゾ所ヲ擇バンヤ夜ニ此處
ヲ去ルニ彼ノ禍祟ヲ攘ハザレバ甲斐ナキ所為ナラズヤ
ト姉答ヘテ汝ノ言ノ如ク災害處ヲ擇バズ然レバ是ハ其類
ニ非ズ其原由ヲ知りナガラテ之ヲ避ケザルハ愚ニ非ズヤ
凡ソ世ヲ涉ルハ何事モ天理ニ循ハザルベカラズ攝生モ
天理ノ一ナリ妾思フニ汝世ヲ涉ル法則ニ悖レリ一家疾

病ニ苦ムハ只此ノ錯誤ノ為ス所ナリト理ヲ述ベ非ヲ責
メテ辨解シケレバ妹服從シテ遂ニ家ヲ移シタリ久シカ
ラバシテ夫ノ宿疾モ痊治シ一家各健康ヲ樂シムニ至レ
リ

小學修身鑑補卷十三終

川島修身會社
編輯
發行
印刷

1201

81

明治二十年二月八日版權免許

同 年九月 刻成

定價金五錢

福岡縣士族

編輯人 吉田利行

福岡縣福岡區福岡濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人 右田喜久郎

同縣同區博多掛町十一番地

小書參身監南 卷之

